

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1(1) 6(5) 36 (14)	方言等を交えコミュニケーションをしているが、「しなっせ」「せなんたい」などの強い口調で発してしまう事がある。介護者としての立場と、利用者が人生の先輩であるとの敬意が反転してしまう。認知症の重度化による言動に介護者が対応できずストレスを感じてしまい、つい強い口調になってしまう。	援助者としての立場、また親しい後輩として、方言等を使ったコミュニケーションも大切にし利用者が日々楽しく生活が送れるケアを目指したい。	・持続的な勉強会を実施し、スピーチロックの理解や会話力を含めた援助力を深めていきたい。	随時
2	4(3)	運営推進会議は感染症対策で、年6回開催予定を全て資料送付で対応している状況である。	現在実施している資料提供で家族等へは、ホーム運営内容を周知していく。感染症の状況をみて運営推進会議を検討する。	・郵送するタイミング(請求書・領収書)に同封する形で継続していく。収束後は、家族参加に向けて周知を行う。 ・感染症の状況次第ではあるが運営推進委員への招集の声かけ、運営推進会議の実施をする。	随時
3	2(2) 29 49(18) 60	保育園秋祭りでの出店や小学生とのふれあい会は再開しているが、買い物支援や外出の機会が減っており閉鎖的な暮らしに職員も慣れてきている。入居者の精神状態の安定や気分転換を図る為にも宛外の活動を増やしていきたい。	感染予防対策、季節や気候に配慮しつつ、可能な限り、入居者ご自身の選択や要望を取り入れ、実際に地域資源への参加をする事で気分転換、認知症の進行を予防し、運動機能の維持を図りたい。	・入居者の要望を聞き、余暇時間を利用して、短時間でも散歩や外出機会を増やしていく。 ・無理に参加させるのではなく入居者の意向に沿ってご自身のペースに合わせて支援する。 ・行事や外出活動にご家族が参加してもらえるような声かけや働きかけを行う。	随時
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。